

特集
「棚田」も「心」も潤して
 白糸第一自治振興会地域づくり



白糸台地の棚田
 通潤用水によって形成される棚田
 景観は、国の「重要文化的景観」に
 選定されています。

白糸第一自治振興会
 第60回

農林水産祭むらづくり部門 天皇杯 受賞

農林水産祭とは

人々に農林水産業の大切さを知ってもらい、また農林水産業を担う方々の経営・技術の向上を高めることを目的に、毎年11月23日の勤労感謝の日を中心に開催されています。「むらづくり部門」は、農林漁業および農林漁村の活性化に取り組みの方々に称え、農林水産業の健全な発展に資することを目的としています。

◀第60回農林水産祭授賞式



白糸第一自治振興会

最優秀事例のなかでも栄えある天皇賞を、白糸第一自治振興会が受賞しました。167年前に通潤橋・通潤用水が完成してから、今日まで継続的に取り組んできた地域づくりが高く評価されました。

「白糸第一自治振興会」は、関係9集落からなり、平成18年に設立、米出荷協議会の「通潤橋水ものがたり会」と一体となって活動をされています。食や地域づくりに関する知見向上のための勉強会や地域ビジョン作成のワークショップを重ね、通潤用水に感謝し美しい白糸台地の景観を守りたいという共通認識が住民の意識と地域力の高さに繋がっているとして評価されました。

今回の特集では、白糸第一自治振興会の地域づくりについて紹介します。



- 1_「通潤用水の生き物たち」観察会
- 2_通潤橋水ものがたり(棚田米)
- 3_通潤橋水ものがたりの会設立
- 4_女性部によるおもてなし料理
- 5_棚田水あかり
- 6_青年部による餅つき体験
- 7_老人部によるしめ縄づくり体験会
- 8_棚田ウォーキング

通潤用水と棚田を 生かした地域づくり

1854年に完成した通潤橋・通潤用水。その維持管理は完成から167年経つ今日まで、住民の手で行われてきました。平成20年には、「通潤用水と白糸台地棚田景観」が選定。住民による継続的な取り組みが景観の評価につながりました。さらに、平成22年には白糸地区全体が重要な文化的景観に選定され、これを契機に住民全体での「通潤用水と棚田を生かした地域づくり」が始まりました。

環境にもやさしい米づくりを

平成25年から、米のブランド化を目指し、特別栽培米の栽培に取り組みました。栽培技術の向上と品質の均一化を図るため、米の栽培講習会の実施に加え、温湯消毒器、食味計を導入。また、農薬はできるだけ使わない栽培を実践したことで水がきれいになり、絶滅が危惧されていたタガメも見かけるようになったそうです。人と環境にやさしい米づくりが自然環境の保全につながっています。さらに、米の品質が向上したこと

から、「通潤橋水ものがたり(棚田米)」の商標登録を行いました。平成26年には、米の出荷協議会である「通潤橋水ものがたりの会」を設立。販路拡大に積極的に取り組み、ふるさと納税の返礼品をはじめ、県外飲食店や大手デパートなどでも取り扱いされています。

■環境保全型農業の実践内容

- ① 種子の温湯消毒
- ② 特別栽培基準(農林水産省ガイドライン)の設置
肥料・化学肥料(チッソ成分)を慣行栽培の50%以下へ
農薬・成分数9成分以内へ(慣行栽培の50%以下)
- ③ 栽培管理表の記帳
- ④ 栽培講習・研修会の実施
- ⑤ 食味計での出荷前検査

住民みんなで考える

地域住民が高い景観への意識を持つよう、食や地域づくりに関する勉強会を重ねてきました。特に女性部は、講演会など積極的に参加しており、勉強会等の活動や情報を地域に伝えるために、女性部新聞を発行し、各家庭に届けています。

通潤土地改良区

2021年度

肥後の水とみどりの愛護賞 受賞

この賞は、地下水など恵まれた熊本の水資源を守ろうと、1987年に、「肥後の水資源愛護賞」として始まりまし。2008年に現在の名称となり、水資源の保全や節水、水質汚染防止、緑化推進などに3年以上取り組み団体や個人を表彰しています。

167年守ってきた通潤用水

通潤橋完成以来、通潤用水を長年にわたり維持・管理してきた通潤地区土地改良区が2021年度「肥後の水とみどりの愛護賞」を受賞しました。

▲阿部理事長(左)と本田事務局長(右)



通潤用水が潤す約100畝の水田は、土砂の流出や濁水を防ぐ機能を持つ「緑のダム」としての役割に加え、都市住民との交流や自然観察の場としても活かされていることが評価されました。

「自分たちにとって、通潤用水を守るのとは昔から行ってきた当たり前のこと。通潤橋を造った布田保之助翁に対する感謝の気持ちは強い。」と阿部理事長。通潤用水の掃除や草刈りは、矢部高生や県内外のボランティアなど多くの人の協力により行われています。

▲用水路の土砂をすくい出す「井出凌い」



棚田復興プロジェクトなど地域に貢献している
しもだ みすず
下田 美鈴さん



通潤橋水ものがたり会 会長
くさの しょうじ
草野 昭治さん



白糸第一自治振興会 会長
やまひら しんご
山村 伸吾さん

「原動力は布田保之助への感謝の念」と草野さん。地域行事の際は布田保之助を称える歌を必ず皆で歌うそうです。活動を行う上で下田さんは「共通理解を深めることを大切にしてきた」と話しました。棚田や通潤橋の歴史、構造など地域特有の豊かさを知るセミナーを開催しました。また、棚田に2000本もの竹灯りを設置した「棚田水あかり」は、農村風景の魅力を再認識するきっかけにもなりました。今後の課題は「後継者の確保」。「棚田管理は重労働で鳥獣被害も隣合わせ」と山村さん。「若い人と考えをすり合わせながら活動を進めたい」と話していました。